

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

2018/3/9

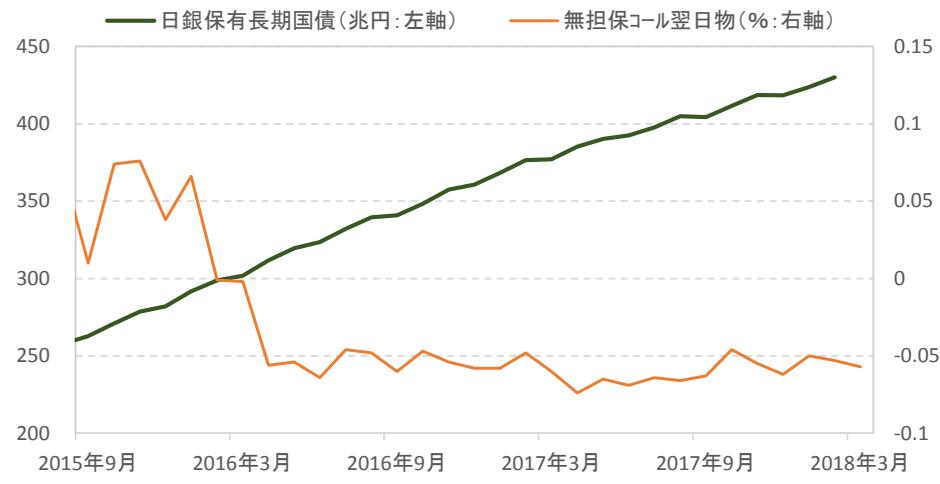
りそなホールディングス 市場企画部



〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%、国債買入れペース年間80兆円は変更なし
 - ◆ 海外経済の見通しを上方修正、住宅投資を下方修正
 - ◆ 円高リスクがあるなかで、金融政策の出口論は封印されよう
- ✓ 日本銀行は3月8-9日の金融政策決定会合にて、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続を決定した。
 - ✓ 主な政策は以下の通り。長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを実行。買入れ額は概ね現状ペース（年間80兆円増）をめど。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。
 - ✓ 前回に続き、片岡審議委員が上記提案に反対。2018年度中に物価安定目標を達成するために、10年以上の幅広い国債金利を引き下げよう、長期国債の買入れを行うことが適当とした。
 - ✓ 1月に公表された「経済・物価情勢の展望」と比較して、海外経済の判断を「緩やかな成長」から「着実な成長」に上方修正。一方、住宅投資は「幅広い圏内」から「弱含んで」に下方修正。
 - ✓ 直近は黒田日銀総裁の出口を巡る発言に神経質となり、円高が進行する場面も見られた。ドル円相場が直近の安値水準にある中で日銀は出口に関する議論を当面封印せざるを得ないであろう。焦点は次回決定会合（4/26-27）より参加する若田部新副総裁のスタンス。同氏は昨年12月に保有国債の拡大（80→90兆円）を提案するなど追加緩和に積極的であった。緩和を提案するようであれば、金融緩和への思惑が高まりやすい。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2017-2019年度の政策委員の大勢見通し（1月時点）】

(対前年比、%)	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)		消費税率引き上げ の影響を除くケース
	< >	~	< >	~	< >
2017年度	+1.8%	~ +2.0%	+0.7%	~ +1.0%	+1.0%
10月時点の見通し	< +1.7% >	~ +1.9%	< +0.7% >	~ +0.8%	< +1.0% >
2018年度	+1.3%	~ +1.5%	+1.3%	~ +1.6%	+1.6%
10月時点の見通し	< +1.2% >	~ +1.4%	< +1.1% >	~ +1.4%	< +1.6% >
2019年度	+0.7%	~ +0.9%	+2.0% ~ +2.5%	+1.5% ~ +2.0%	+1.8%
10月時点の見通し	< +0.7% >	~ +0.8%	< +2.0% ~ +2.5% >	< +1.5% ~ +2.0% >	< +1.8% >

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。